

### マカッサル市における母子保健関連職種の役割及び母子保健問題

一保健センター・母子病院の職員インタビュー調査から一

新潟医療福祉大学看護学科・松井由美子  
塚本康子

#### 【背景】

ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals, MDGs) は 2015 年を目前に、目標 4 の「乳児死亡率を 2/3 に削減すること」と、目標 5 の「妊産婦死亡率を 3/4 に削減すること」の目標達成が危ぶまれている。現在インドネシアのマカッサルを拠点に母子保健水準の向上を目指して妊産婦と乳幼児の健診及び事後指導に着目し 2 つの保健センター (Puskesmas: PKM) とその保健支所 (Posyando) で調査を行ってきたが、関連職種の役割は分業化されており多様であった。健診に関わる専門職種を中心とする母子保健の担い手は国によって異なり、また所属する職場によっても役割が様々である。また、母子保健問題に関しては農村部と都市部、経済的格差による地域差なども見られ、管轄する地域の特性を踏まえた支援策が必要となっている。本研究ではマカッサル市役所及びマカッサル市中心部にある 2 つの保健センターと 2 つの母子病院での職員インタビュー調査から関連職種の役割と母子問題を明確にすることで、インドネシア独自の母子保健対策を考察し、その地域に合った支援のあり方を検討する。

#### 【方法】

対象施設：マカッサル市保健市役所, PKM Kassi-kassi, PKM Mangasa, Pertiwi Hospital, RS Fatimah, 保健ポスト Posyando Aska

調査期間：2013 年 8 月 28 日～9 月 3 日の 7 日間

調査方法：インタビューガイドを用いた半構造化面接  
時間は職務中であることを考慮し 1 人 20 分とし、現地通訳者による通訳を含めて録音した。

分析方法：データは逐語録を作成し内容分析を行った。

倫理的配慮：通訳を通じて、口頭にて研究の主旨を説明後、録音を含めて同意を得て実施した。研究は新潟医療福祉大学倫理審査委員会の承諾を得た。

#### 【結果】

インタビューの回答者は 27～54 歳の男女 20 名 (うち男性 2 名) で、平均年齢 43±8.5 歳で、インタビューの所要時間は平均 17±10.0 分であった。職業の内訳は助産師 7 名、看護師 3 名、栄養士 3 名、カデル (保健ボランティア) 3 名、医師 2 名、検査技師 1 名、感染担当者 1 名であった。所属別では保健市役所 1 名、PKM Kassi-kassi 7 名、PKM Mangasa 5 名、母子病院 4 名、Posyando Aska 3 名であった。

#### 【考察】

インタビューから得られた情報を基にそれぞれの職種の役

割について図を作成した (図 1)。

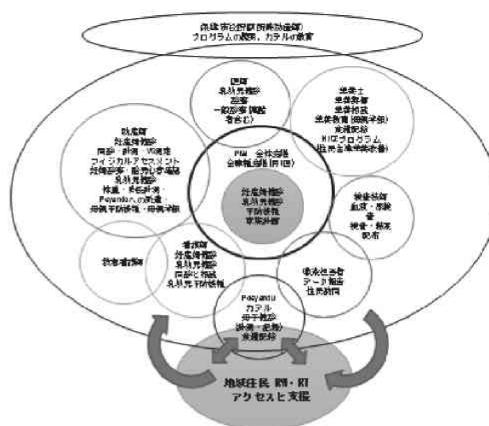


図 1. 保健センター拠点の母子保健関連職種の役割図

図のモデルとなったのは PKM Kassi-kassi でマカッサル市にある 38 の PKM の中でも母子の入院施設と検査室を有する母子保健の中核を担う保健センターである。1 日に約 70 人の妊婦が訪れ月・水に母子健診、火・金は予防接種が行われ、6 名の医師と 4 名の助産師、10 名の看護師が常時勤務している。月 1 回母親学級も開催され栄養士も 2 名常駐し母子の栄養相談を行っている。感染管理担当者は住民訪問を頻繁に行い、政府への健康に関するデータ報告を行う。母子健康管理に最も重要な役割を果たすのは助産師であり、健診や予防接種の責任者として出産の前後を通じて幅広いサービス提供を行う。また、カデルは住民に一番近い存在として研修を受けながら健診業務や栄養補助食品の配給など幅広い活動を行っている。多くの職種が母子保健に関わりそれぞれの役割を果たしているが職種間の連携については月 1 回の全体会議のみで行われ、健診ごとの事後指導やケース会議が必要と思われた。

母子保健問題のカテゴリでは「未受診(11)」、「栄養問題(7)」、「母親の知識不足(5)」、「不十分な設備(4)」、「人材不足(4)」、「清潔習慣の不足(3)」、「予防接種への無関心(3)」などが挙げられた。考えられる対策としては「母親教育(8)」が最も多く母親学級などの充実化が求められていた。インドネシア政府は妊娠中に 4 回の健診を受けることを推奨しているが、Yenita らは妊婦の受けた教育や所得、伝統的・宗教的な信念などによって産前健診の受診率に違いがあると述べている<sup>1)</sup>。インドネシア政府刊行の年次レポート<sup>2)</sup>でもこれらの課題は報告され、改善目標も示されており今後の対策が期待される。

#### 【結論】

母子保健関連職種は多様でそれぞれの役割を果たしているが健診ごとの事後指導やケース会議が必要である。未受診対策のためにも母親の教育が重要と思われる。

#### 【文献】

1)YenitaAgus, Shigeko Horiuchi:Factors influencing the use of antenatal care in rural West Sumatra, Indonesia. BMC. 2012, 12-9.  
2)Ministry of Health:Indonesia Demographic and Health Survey 2012. Statistics Indonesia, August 2013.